

ガリラヤで会うことになった マタイ28:1~10 / 李正雨師

主が復活なさいました。そして皆様も必ず復活します。私は、聖金曜日の礼拝でイエス様の死について説教しました。そして、イエス様の死は一般的な死ではなく、神様の栄光を表す死だと申し上げました。なぜなら、イエス様の死は神様の摂理の中で起きたことだからです。神様は、私たち人間のために独り子を送られ、彼をいけにえとして死なせました。これは、許しに関することとして、大昔、神様が私たち人間と定められたことでした。イエス様はこの定めに従ってご自分を犠牲にされ、この犠牲は、イエス様自身にも、イエス様を送られた神様にも栄光になることでした。そして、私たちはこの栄光によって赦し、すなわち救いを得るようになったのです。それで聖金曜日は、主の死を哀悼することで終わるのではなく、同時に私たちの救いの確定を喜ぶ日です。神様の赦しが現実に現れたのです。グッドフライデー。良い金曜日。これが聖金曜日が持っている真の意味だと思います。

それでは、今日、復活祭はどんな意味を持っているのでしょうか。イエス様の死が赦しを示しているとしたら、復活は、もはや罪と死の力が私たちを脅かしたり、干渉したりすることはできないということを示しているのです。過去のアダムによって罪がこの世に入り、罪はこの世に死をもたらしました。しかし、イエス様の死によって私たちの罪は許され、イエス様の復活によって私たちにもたらされた死は消え去りました。そして、私たちには永遠の命が与えられました。これが復活祭が持っている意味です。だから私たちは、私たちの肉体的な死後だけでなく、今の世の中でも永遠の命を享受しながら生きることができます。しかし多くのクリスチャンは、この復活の意味について疑問をいただいています。なぜなら、復活の喜ばしいニュースにもかかわらず、私たちは、変わらず罪と死についての恐れを持っているからです。「イエス様の復活によって私たちの罪と死がなくなったことは分かりました。では、なぜ私たちは、変わらず私たちの中で罪と死を感じているのでしょうか。」これが私たちの質問ではないでしょうか。なぜ罪と死の恐れが消え去らないのでしょうか。ルターは、これは、罪に縛られている私たちの弱い心が恐れを創造しているからだと言っています。

ルターの復活主日の説教の一部です。

「これに対する私の答えは、私が以前にもよく話したように、感情と信仰は、同じではない別のものだということです。何かを感じようとするのではなく、理性を一応差し置いて、神様の言葉に従うこと、これが信仰なのです…（中略）ですから、私たちは、私たちの感情を無視しなければなりません。私の罪は、私から取り除かれていないように見え、その罪をまだ感じています。御言葉だけを受け入れなければなりません。なぜなら、私たちの信仰は、このような感情にもかかわらず、私たちをキリストに導いているからです。」

ルターは、私たちが罪と死について恐れているのは、感情や理性のようなもののためだと言います。イエス様の復活が死の恐れを乗り越えられなかったのではなく、私たちの感情が恐れを乗り越えられなかったのです。残念ながら、私たちは自分が理解できることだけを受け入れています。信仰のことも、自らが理解できる範囲で理解しようとしているので、罪と死についての恐れを越えられないのです。それで、ルターは、感情と信仰を区別すべきだと言います。自分の感情とは関係なく、罪と死は、イエス様の復活によって消え去ったからです。皆様が百回も千回も、罪と死を恐れてみてください。その恐れは、皆様の魂に何の脅威も干渉もすることはできません。

今日の福音書でも、これと同じ出来事が起こります。今日の福音書は、安息日が終わって、週の初めの日に、マグダラのマリアともう一人のマリアがイエス様のお墓を見に行ったことが書かれています。ところが、彼女たちは、イエス様の復活を見に行ったわけではありません。マルコによる福音書とルカによる福音書を見ると、彼女たちが香油を持って行ったということが分かります。安息日のため、イエス様の遺体を包む余裕もなく葬ったので、彼女たちは、葬儀の仕上げをするためにイエス様のお墓に行ったのです。福音書によると、イエス様はご自分の死と復活について少なくとも3回以上弟子たちに言われました。しかし、すべての弟子たちはこれを信じなかったし、自分たちが見たイエス様の死だけを覚えました。今日の福音書のマグダラ

のマリアともう一人のマリアも同じでした。しかし、彼女たちを含む弟子たちの理性や感情とは関係なく、イエス様は復活なさいました。

ユダヤ人の伝統によると、神様の偉大な出来事には、天使が登場します。今日の福音書でも天使が登場しますが、これは今日の福音書であるマタイによる福音書がユダヤ人のための福音書だからです。つまりマタイによる福音書の著者は、天使の登場を通して、イエス様の復活が神様の偉大な出来事だということを知らせているのです。また、この天使の登場と共に地震が起こりますが、旧約聖書の出エジプト記によると、地震も神様の出来事を表すときに起こる現象の一つだということが分かります。例えば、モーセが十戒を受けるためにシナイ山に登ったとき、地震が起き、神様の声が聞こえていました(出19:18)。イエス様の復活にもこのようなことが起こり、これによって墓の番兵たちは、死者のようになりました。

このように地震と共に現れた天使は、イエス様の復活を彼女たちに知らせます。そしてまた面白い話もします。6節の言葉です。「あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさいました。さあ、遺体の置いてあった場所を見なさい。」天使は、イエス様が言われていたとおり、復活なさいましたと言います。弟子たちは、イエス様の死を見て、すべてが終わったと思いました。これは、イエス様の言葉や信仰によるものではありませんでした。弟子たちの理性と感情によるものであり、これによって弟子たちはそれぞれの道に戻りました。しかしイエス様は、弟子たちの理性や感情と関係なく復活なさいました。私たちが信じている復活とは、このようなものです。私たちの理性と感情に捉われたり、私たちが理解できる範囲の中にあたりするものではありません。イエス様は復活のことを言われ、言われていたとおり、復活なさいました。

そして天使は、イエス様の復活の知らせだけでなく、イエス様の復活をどこで確認できるかも教えてくれます。7節の言葉です。「あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。」天使は、復活なさいましたイエス様と出会う場所としてガリラヤを言います。そしてこの場所は、イエス様によってもう一度言われます。「行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる(10節)。」なぜイエス様は、復活なさいましたご自分と出会う場所として、ガリラヤを言われたのでしょうか。ここにはいくつかの理由があると思いますが、私は、次の2つの理由のため、ガリラヤを言われたと思います。第一に、イエス様が弟子たちにご自分の死と復活を最後に言われたとき、このガリラヤに言及したからです。マタイによる福音書第26章32節によると、イエス様は「復活した後、あなたがたより先にガリラヤに行く」と言われました。イエス様は、明らかにご自分の死と復活について言われましたが、弟子たちはこれを信じませんでした。しかし、弟子たちの信仰の有無にかかわらず、人の理性や感情とは関係なく、イエス様は復活され、ガリラヤに行かれました。

二番目には、イエス様と弟子たちが主に活動していた場所がガリラヤだったからだと思います。イエス様の復活を知らせるための効果的な場所とすれば、ガリラヤよりはエルサレムがよりふさわしいでしょう。復活なさいましたイエス様がエルサレムの神殿に現れたとすれば、大騒ぎになるだけでなく、大祭司長をはじめすべての人々がイエス様に従ったかもしれません。しかしイエス様は、エルサレムではなくガリラヤに行かれました。なぜなら、イエス様の復活は、証明をするためのもの、人々を屈服させるためのものではないからです。イエス様の復活は、徹底的にイエス様に従っている人々のためのものでした。罪と死の恐れを持ってイエス様に従う人々、イエス様の救いを信じる人々、永遠の命を救う人々のためのものでした。それで復活なさいましたイエス様は、弟子たちと共に生活していた所、ご自分について信仰の花が咲いた所、弟子たちが集まるガリラヤに行かれたのです。私たちにとっても同じでしょう。復活なさいましたイエス様と出会う所は、イエス様の復活を皆に証明できる場所ではありません。国会や商工会議所のような場所ではありません。まさにここ、私たちのガリラヤ、私たちが信仰生活している場所です。そして、ここで私たちの復活の話が花開いて、私たちのための復活の言葉が分かち合われるのです。証明や自慢するための復活ではない私たちのための復活。イエス様は、この復活の信仰がある所で私たちと出会ってください。復活なさいましたイエス様がガリラヤで弟子たちと出会ってくださいのように、私たちとも私たちの生活の中で出会ってください。この復活の喜びがこの場に集まった皆様と共にありますように。復活の信仰が恐れの中にいる私たちをイエス様の御前に導いてくれますように、主の御名によって祈ります。アーメン